

一目でわかる



循環器疾患の諸症状に役立つ 漢方の選び方

土倉潤一郎（土倉内科循環器クリニック院長）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>をご参照ください。

▶ 登録手続

総論	p2
各論	
1. 動悸	p3
2. 心臓神経症（胸痛，呼吸困難感）	p7
3. 起立性調節障害，起立性低血圧	p8
4. 下腿浮腫	p10
5. 高血圧	p12
6. 末梢動脈疾患	p14
7. 心不全患者の諸症状	p15
8. 副作用	p26
9. 腎障害・肝障害患者への投与量	p27
10. 服用方法	p27
11. 漢方薬を中止するタイミング	p27

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

総論：循環器×漢方——循環器診療に漢方の出番はあるのか？

漢方にも得意・不得意の分野がある。それは症候や診療科によっても異なる傾向があり、婦人科、心療内科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、小児科などは漢方との親和性が高く、関連学会や研究会も発足している。

一方で、循環器領域は漢方との親和性は高いとは言えず、実際の使用頻度も少ないと思われる。一般に漢方薬は標準的治療では取り切れない症状に使用されることが多いが、循環器領域(虚血性心疾患、高血圧、脂質異常症、心不全など)では西洋医学で改善する場合が比較的多く、さらに漢方治療も不得意であることが多い。

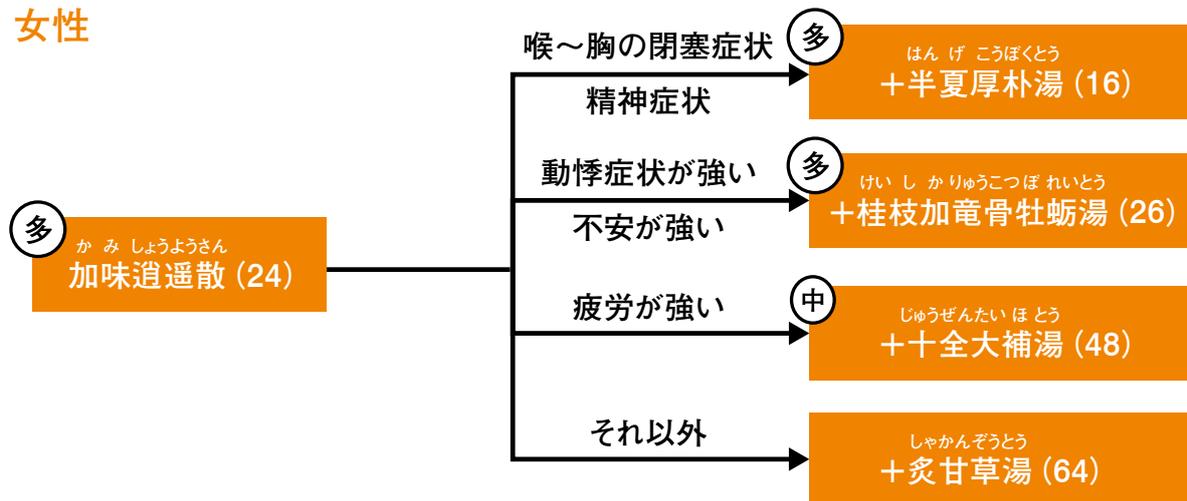
しかし、そのような循環器領域の中でも“ここは漢方のほうが役立つ”といった分野もある。その対象としては、更年期、自律神経や精神的な問題の関与、高齢者などが多いと思われる。患者が困っているときに治療の選択肢のひとつとして漢方薬を提案できれば、診療の幅が広がり患者の満足度も上がるのではないだろうか。

なお、今回掲載した漢方薬には利便性のため株式会社ツムラの製品番号を併記した。

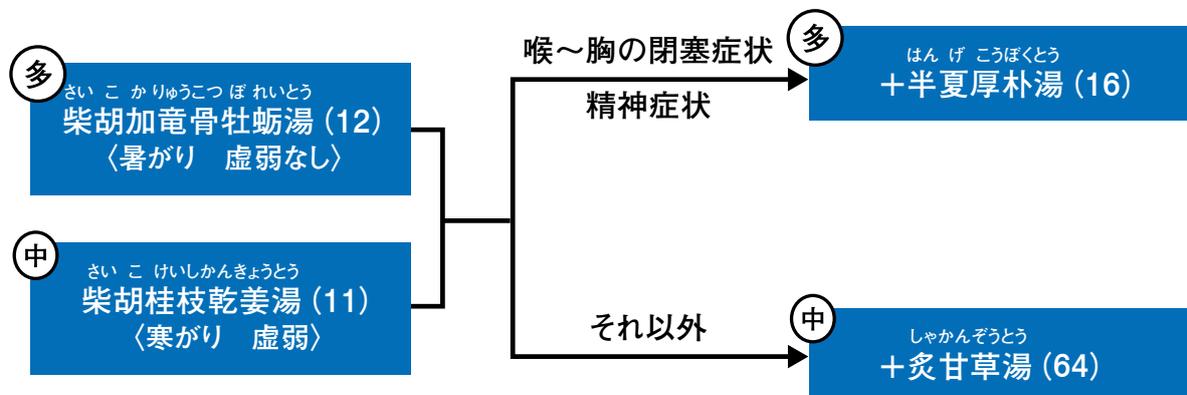
1. 動悸

動悸の漢方薬フローチャート

女性



男性



心房細動，心室頻拍，房室結節回帰性頻拍などは西洋治療が優先されるが，期外収縮，心房頻拍，洞性頻脈（不整脈のない動悸も含む）などで患者が動悸症状に困っている場合は，漢方薬も治療選択肢のひとつになりうる。漢方薬を使用することで不整脈は減らなくても動悸症状が軽減することはよく経験する。

(1) 自律神経を調節する漢方薬 (気剤)

例： かみしょうようさん 加味逍遙散 (24), さいこかりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯 (12), けいしかりゅうこつぼれいとう 桂枝加竜骨牡蛎湯 (26), さいこけいしかんきょうとう 柴胡桂枝乾姜湯 (11), はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯 (16), かみきひとう 加味帰脾湯 (137), りょうけいかんそうとう 苓桂甘藶湯 (苓桂朮甘湯) (39) + かんばくたいそうとう 甘麦大棗湯 (72) など。

上記の漢方薬には自律神経調節作用，抗不安作用，抗うつ作用，抗ストレス作用などがあり，動悸の原因としてストレス，不眠，不安，イライラなどが関与している場合，西洋薬ではベンゾジアゼピンなどが適応となるような場合に使用することが多い。これらの漢方薬で動悸だけでなく，不眠，不安，イライラなども改善する可能性がある。動悸症状や不整脈だけを治すというよりも，「心身ともに整えるイメージ」であり，これが漢方の醍醐味と思われる。動悸だけでなく様々な不調が良くなるため，患者にも喜ばれやすい。

(2) 気力・体力を補う漢方薬 (補剤)

例： しゃかんぞうとう 炙甘草湯 (64), じゅうぜんたいほとう 十全大補湯 (48), にんじんようえいとう 人參養榮湯 (108), 加味帰脾湯 (137) など。

東洋医学では，動悸の治療に気力や体力を補う薬剤も鑑別処方として挙げられている。イメージとしても，動悸は元気な状態よりも疲れや睡眠不足などがあるときのほうが起きやすい印象である。実臨床では気剤が適応となる場合が多いが，補剤を併用して（あるいは単独で）改善する場合も少なくない。

(3) 動悸に使用する漢方薬

●加味逍遙散 (24)

女性の動悸に第一選択。自律神経調節作用（主に交感神経抑制），抗不安作用，抗ストレス作用，抗うつ作用，女性ホルモン調節作用などがあり，自律神経症状，精神症状，血管運動神経症状（ホットフラッシュなど）によい。

全体的なイメージとしては交感神経やイライラなどをゆるめる方向性の薬剤で、女性の自律神経や女性ホルモンを調節し、動悸以外にイライラ、肩こり、緊張型頭痛、不眠、めまい、ホットフラッシュ、月経前症候群、月経痛なども緩和する可能性がある。特に、更年期世代や月経周期に伴う動悸には最優先で用いられる。

*効果不十分例

- ①喉のつまり感、呼吸困難感(息苦しさ)などを伴う場合、不眠などの精神症状が残存している場合は半夏厚朴湯(16)を併用
- ②それ以外の場合、動悸症状や不安が強い場合は桂枝加竜骨牡蛎湯(26)を併用
- ③疲労が強い場合は上記(2)の補剤を併用
- ④抑うつや不眠が残る場合は加味逍遥散を加味帰脾湯(137)へ変更

●柴胡加竜骨牡蛎湯(12)

男性の動悸に第一選択。自律神経調節作用、抗不安作用、抗ストレス作用、抗うつ作用などがある。基本的には暑がりタイプに使用する漢方薬であり、寒がりや虚弱タイプには柴胡桂枝乾姜湯(11)を用いる。

柴胡加竜骨牡蛎湯には交感神経緊張の抑制作用¹⁾、アドレナリン作動性神経系の抑制作用²⁾が報告されているが、抑うつなどにも効果を示すため実臨床の印象としては交感神経抑制だけでなく、自律神経を調節するイメージである。また、含有生薬の竜骨や牡蛎自体に動悸を減らす作用もある。

*効果不十分例

- ①喉のつまり感、呼吸困難感(息苦しさ)などを伴う場合、不眠などの精神症状が残存している場合は半夏厚朴湯(16)を併用
- ②炙甘草湯(64)を併用
- ③抑うつや不眠が残る場合は、柴胡加竜骨牡蛎湯を加味帰脾湯(137)へ変更